

1. 分科会活動報告書 審査基準および審査結果

1. 1. 活動報告書審査員および審査基準

ソリューション研究会役員会が審査員となり、下記の観点から審査し、優秀賞受賞対象となる活動報告書を選定しました。

1. 研究活動の反映： 分科会の研究プロセスが反映された内容であること。
2. 研究内容の深堀り度： 様々な観点からアプローチされているとともに、研究内容がきちんと深堀りされている。
3. 合理性、説得力： 分科会の主張や結論に裏付けがあり、その主張や結論に合理性や説得力があること。
4. 貢献度、有効性： 成果物が、実務に役立つことから、会員企業に対する貢献度が高い。
5. 表現力： 文章が読みやすく、まとまりがあり、論旨がはっきりしているとともに、図表の使い方や見た目の表現力に優れている。

1. 2. 審査プロセス

上記に示した評価基準を以下の採点表により各項目ウェイト付けし、各地区役員が、S（5点）、A（4点）、B（3点）、C（2点）、D（1点）でその地区の活動報告書を採点しました。審査員の総得点を参考に、地区ごとに優秀賞および特別賞が決定されました。

評価： S(5点)、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)

重み付け： ①～⑤すべて4とした。

ウェイト	評価項目	分科会1					分科会2						
		S	A	B	C	D	点	S	A	B	C	D	点
4	① 分科会の研究プロセスが反映された内容であること						0						0
4	② 様々な観点からアプローチされているとともに、研究内容がきちんと深堀りされている						0						0
4	③ 分科会の主張や結論に裏付けがあり、その主張や結論に合理性や説得力があること						0						0
4	④ 成果物が、実務に役立つことから、会員企業に対する貢献度が高い						0						0
4	⑤ るとともに、図表の使い方や見た目の表現力に優れている						0						0
	合計得点						0						0

1. 3. 審査結果および総評

▼全国 最優秀賞

○情報共有・企業内コミュニケーション 分科会（西日本）

この難しいテーマをよくここまで掘り下げて研究したものだと感じた。内容の充実度、深さ、ロジックなど、すべての点で優れている。社会心理学の視点も組み込んだ、すばらしい内容になっている。仮想モデル会社を例示しながら説明していく手法も、とてもわかりやすい。参考文献のボリュームを見ても内容の深さがわかる。読み手を引き込む内容であり、どの企業にも参考になるすばらしい研究成果である。

▼東日本

○リスク・マネジメント 分科会（活動報告書 優秀賞）

ERMの概要を体系的に整理し、メンバー全員が共有している点は研究活動成果としてすばらしい。特に付録のERM構築手順は雛形として、各社でERM導入に直面した場合に有用となろう。企業不祥事の分析もとてもタイムリーで、新聞などの論説とはまた違った観点で問題が論じられている。文章の量が多いだけに図表を効果的に使ったりして分かりやすく工夫をすれば、もっと良くなったであろう。

○Webの今後と新技術 分科会（プレゼン賞）（活発な分科会賞）

Web2.0の影響の分析を深め、今後の生活に関連する4分野をケースに、光と影をまとめた上で、未来展望として、新技術のみならず人や組織が重要な要素になっている点は共感できる。必要な要素である「新技術」については紹介に留めず、活用方法など突っ込んだ分析、考察まで期待したかった。発表会アンケートで、プレゼンが「大変よかった」の割合が一番高く、また年間出席率も一番高かった。

○デスクトップ用オープンソース・ソフトウェアを研究しよう 分科会（特別賞）

基礎コースには実践的で良くまとめてあり、オープンソース・ソフトウェアを導入しようとする企業、ユーザには、取り上げられた事例や成功のポイントは有用な報告と考える。参加企業にとって教材としてダウンロードされ、利用されることを期待したい。導入時のみならず、運用段階でのサポート体制の作り方、管理体制の考え方や方法論の観点から、もう一歩加えてもらいたかった。

▼西日本

○システム開発・保守の品質評価 分科会（プレゼン賞）

問題点から原因、原因の深掘りから対策というアプローチを網羅的に漏れなく実施できている点が良い。成果物内の対策について、一律に挙げるだけでなく、対策を実施する上での制約事項や優先順位の観点が考慮されていると一層良かった。地味になりがちな研究テーマ内容を上手に捉えプレゼンテーションに工夫が見られた。

○Webの今後と新技術 分科会（敢闘賞）

「15分完全マスター Web2.0!」は、簡潔にわかりやすくまとまっており、とても価値がある。各メンバーがそれぞれ具体的にマッシュアップサイトを考え、しかも、そのうちの1つを一般公募しているコンテストに応募するという積極性はすばらしい。少ないメンバーでも実践的な活動を行ってきた努力は評価に値する。

▼中日本

○BCP(事業継続計画) 分科会（活動報告書 優秀賞）

掲げた「研究テーマ」に沿い、幅広く研究し、その結果もよくまとめられている。特に、地震・台風など多くの機会を挙げ、人の移動や電力供給、機材手配などにわたり、多面的について検証されており具体性のある提言ができています。他の企業でも、BCP検討に当たり、十分に参考となる内容になっていることを評価したい。

○仮想化(VMwareなど)の技術利用 分科会（プレゼン賞）

ここ最近の潮流である仮想化技術において、その歴史から現在主流になっている技術までの分析は、評価できる。またその特徴から導入のための評価ポイント、導入検討時の留意点までまとめられており基礎コースの研究成果としては傑出している。発表会のアンケート結果の平均得点が全分科会中一位であった。

○情報共有と企業内コミュニケーション 分科会（特別賞）

ツール選定のプロセスをもとに4つのシートを作成しており、また、横軸を「特性」(運用機能)で共通化し、ツールとのフィットギャップの評価基準にした点にオリジナリティとしての価値がある。また、サンプル(仮想シチュエーション)を用いて選定ステップを評価したこと、研究の跡が伺える。サンプルを多くして、この手法の評価を行うとさらに良かった。